

平成20年12月10日

報道関係各位

日本女子大学

「第四回 平塚らいてう賞」 受賞者決定

～顕彰（1件）「山内恵氏」、奨励（1件）「孔令亜氏」、特別（1件）「飯島ユキ氏」～

人権週間でもある12月10日（木）、日本女子大学は研究者・学生の顕彰・奨励を目的とした「第四回 平塚らいてう賞」の受賞者を発表しましたので、お知らせします。

「平塚らいてう賞」は、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女大卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対する顕彰と奨励をはかることを目的に平成17年に創設したものです。

本年は顕彰3件、奨励1件の応募があり、厳正な審査の結果、顕彰1件、奨励賞1件、特別賞1件が決定しました。本年は、らいてうの人物並びに活動を再認識させ、広く知らしめた功績に対して特別賞を設けました。受賞された方々を以下にご紹介します。

■ 受賞者

1. 顕彰（1件）山内恵氏
（清泉女子大学、桜美林大学、東京女子大学等非常勤講師）
2. 奨励（1件）孔令亜氏
（日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修士課程）
3. 特別（1件）飯島ユキ氏
（俳句 羅（ra）の会）

なお、贈賞式は、2009年2月7日（土）14時より、日本女子大学 新泉山館において行います。

<選考委員>

- 後藤 祥子 [日本女子大学学長]
中畠 邦 [平塚らいてうの記録映画を上映する会会長]
羽田 澄子 [映画監督]
出淵 敬子 [WILPF（婦人国際平和自由連盟）日本支部会長]
大沢 真知子 [日本女子大学人間社会学部現代社会学科教授]

（この件に関するお問い合わせ先）

日本女子大学 広報渉外課内 平塚らいてう賞事務局

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

Tel : 03-5981-3176、Fax : 03-5981-3164

E-mail : raiteu@atlas.jwu.ac.jp

HP : <http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/>

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY THE RAICHO HIRATSUKA PRIZE



「第四回 平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第四回受賞者の選考にあたり、私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して、「顕彰」、「奨励」、「特別」に値するとの結論に達しました。それぞれのご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

< 顕 彰 >

受賞者：山内恵氏（清泉女子大学、桜美林大学、東京女子大学等非常勤講師）

研究テーマ：アメリカ社会文化史、アメリカ女性史、日米女性比較史

受賞理由：

本年度の「平塚らいてう賞」の顕彰部門は、山内氏の『不自然な母親と呼ばれたフェミニスト—シャーロット・パーキンズ・ギルマンと新しい母性—』（東信堂、2008年5月）に授与されることになった。

本書は女性解放思想の歴史における「母性」をめぐる問題にメスを入れ、同時代の女性解放思想の文脈のなかで、ギルマンの「母性思想」がもつ新しさとその意味を探り、フェミニズムの流れのなかに位置づけ再評価しようとしたモノグラフである。

日本ではギルマンは小説『黄色い壁紙』の作者として一般に知られているアメリカ女性作家であるが、実践的な思想家としてのギルマンは当時のフェミニズムのいずれの陣営に対しても距離をおき、独自の先鋭な女性解放思想を創り上げて行った人である。その思想の軌跡は膨大な著作として残されているが、山内氏は内外の一次資料、二次資料ともよく読みこみ、19世紀から20世紀にかけての時代の転換期に生きたギルマンが、母性愛に乏しい「不自然な母親」という烙印を押され苦闘しながらも、「近代」という時代を超えた普遍性をもつ母性思想・女性解放思想を創り出そうと努力した経緯を解き明かしている。

「母性とフェミニズム」のせめぎあいのなかに、山内氏は「近代」フェミニズムそのものに内在する矛盾と葛藤を指摘し、ギルマンは「それらすべてを糧としてラディカルなフェミニズム思想を創り上げた」という結論にいたる。従来は私的領域に属するものと考えられていた母性を社会的領域へ解放しようとしたギルマンの主張は、現在でも全面的に認められているとはいえないはことを考えれば、ギルマンにおける「新しい母性」の問題は、21世紀のいまも仕事をもって働く母親の問題として継続している。そこに本書刊行のもうひとつの意味がある。

最終章「ギルマンのフェミニズム思想と日本の受容」では、成瀬仁蔵、平塚らいてう、山川菊栄などそれぞれがギルマンの思想にどのように反応したかを論じていることも興味深い。

山内氏は、1970年愛知県立大学外国学部卒業後、企業に就職し働いたが、長男の出産を機に退職、20余年間3人の子育てと主婦業に専念した。42歳のとき埼玉大学教養学部で学士入学、続いて同大学大学院文化科学研究科に進学した後、東京外国語大学大学院地域文化研究科博士課程後期に入学、コーネル大学大学院への1年間の留学を経て、2001年同大学同研究科を満期退学し、2002年東京外国語大学より学術博士号を授与された。山内氏のこのような経験は、氏のシャーロット・パーキンズ・ギルマン研究が単に机上の空論でなく、実際の体験に裏打ちされた問題意識の存在の結果であると推察される。その意味で本研究には著者の追求の切実さが感じられ、女性解放はどのようなものであるべきかについてギルマンと共に思索している著者の真摯な姿勢が反映している。

以上に述べたことから、山内氏の研究はらいてう賞に誠にふさわしいものとする次第である。

< 奨 励 >

受賞者：孔令亜氏（日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修士課程）

研究テーマ：中国都市部の女性労働問題とその課題

受賞理由：

経済のグローバル化が進むなかで、中国社会の変容にひとびとの関心が向かっている。ダイナミックに社会が変化していくなかであって、中国の女性たちはどのように働き、生活しているのか。中国社会が大きく変容しているなかで、女性労働者の現状と課題はどこにあるのか。本論文はそれを日本との比較であきらかにしようとするものである。

社会制度の違いは女性労働者の実態にどのように異なった影響をもたらすのか。男女の平等が原則の社会主義の国で男女間の収入格差が生じるのはなぜなのか。本研究は女性労働の分析において十分に解明されていなかった分野に新たな光を当てる研究であるとおもわれる。

< 特 別 >

受賞者：飯島ユキ氏（俳句 羅（ra）の会）

研究テーマ：俳句を通しての平塚らいてうの顕彰・季語「らいてう忌」の普及

受賞理由：

著書『今朝の丘 平塚らいてうと俳句』を2007年11月に出版した。女性解放と平和運動に力を入れた平塚らいてうは、若いときから俳句愛好家であった。一部には知られていたが、飯島氏によって収集され、はじめてこの句集となった。飯島氏自身、句集を出版し俳誌「羅」の代表者であり、若いときに平塚家の近隣に住み、夫婦にかわいがられ、亡くなるまで交流があったのも縁となっている。

表題は どころなく春の日ざしや今朝の丘 からとられている。

本書出版後、反響を呼び、新聞その他で紹介され、らいてうの一面を知らせる書として注目されたが、それを契機に歳時記の季語として「らいてう忌」の復活を願って、「らいてう忌」の俳句募集に踏み切った。第一回は2053句、第二回は1801句が、男女を問わず、国内外からも投句され、入選句が公表されている。今後も、活動を継続する由である。

日本発祥の文学俳句をたしなむ人々は多く、「らいてう忌」への反響は広範に広がった。あらためてらいてう先駆者としての願いをこの活動が推進する役割を果たすと期待している。

以上